

No. 55

昭和61年12月20日 発行

ねじればね

発行：日本甲虫学会

〒658 神戸市東灘区御影山手2丁目19-8
大倉正文 方

電話：(078) 811局 2706 番

Dec., 1986

郵便振替口座 大阪9-39672番

雨石山麓において鶏肉トラップに誘致された 甲虫類について (3)

林 靖 彦

2. 誘致された種とその季節的消長

ガムシ科 HYDROPHILIDAE (6種, 474頭) -表6-

1. マグソガムシ *Pachysternum haemorrhoum* MOTSCHULSKY
2. モンケンガムシ *Nipponocercyon shibatai* M. SATÔ
3. ケンガムシ *Cercyon ustus* SHARP
4. アカケンガムシ *Cercyon olibrus* SHARP
5. *Cercyon vagus* SHARP
6. *Cercyon* sp.

種の同定をしていただいた佐藤正孝氏に厚くお礼申し上げます。

考 察：筆者は寡聞にてガムシ類の季節的消長や食屍性に関する資料をほとんど見たことがないので、ガムシ類についてはこの調査資料のみで考察した。

ケンガムシは春も暖かくなってから誘致され出し、そのピークは梅雨期にある。手許の資料も少ないので断言できないが、当地では年1化、早春から梅雨あけ頃まで成虫が出現するものようである。アカケンガムシは個体数も多いことから食屍性も強いものと考えられる。本種も前種と同じ頃に出現し、その大きなピークは5月下旬と7月上～中旬にあり、中秋にも小さなピークがある。これらのことから本種は年3～4化で、春から盛夏前に多く出現するものようである。

エンマムシ科 HISTERIDAE (3種, 174頭) 一表7-

1. クロツブエンマムシ *Abraeus bonzicus* MARSEUL
2. ヒメエンマムシ *Margarinotus weymarni* WENZEL
3. コエンマムシ *Margarinotus niponicus* (LEWIS)

考 察 : 当地では食屍性エンマムシが非常に少ないのか上記3種が得られたにすぎなかった。

上村1960と共通のコエンマムシについて比較検討して見た。当地では5月上旬に出現し、同月中～下旬に第一のピークがある。ついで8月上～中旬に第二のピークがある。このことから当地では年2化で晩春から中秋頃まで出現するものと考えられる。一方、常念岳においては低山地域では5月下旬から6月上旬、7月上旬、8月上旬の3回の誘致のピークが認められる。また、中山域では低山域とややずれて6月上旬と6月下旬から8月上旬にかけての長い期間の計2回のピークがある。このことから常念岳の低山域では年3化または年2化で、2化目が少しずれて出現するものと思われる。また、中山域では年2化となるように思われる。

タマキノコムシ科 LEIODIDAE (1種, 1頭) 一表7-

1. ウスイロヒメタマキノコムシ *Pseudocolenis hilleri* REITTER

ムクゲキノコムシ科 PTILIIDAE (1種, 8頭) 一表7-

1. コゲチャムクゲキノコムシ *Acrotrichis fuscus* (MATTHEWS) ?

ジョウカイボン科 CANTHARIDAE (1種, 1頭) 一表7-

1. マルムネジョウカイ *Prothemus ciusianus* (KIESENWETTER)

ムクゲキスイムシ科 BIPHYLLIDAE (1種, 1頭) 一表7-

1. ケマダラムクゲキスイ *Biphyllus flexiosus* (REITTER)

ミジンムシダマシ科 DISCOLOMIDAE (1種, 1頭) 一表7-

1. クロミジンムシダマシ *Aphanocephalus hemisphericus* WOLLASTON

(続 く)

瑞穂町（京都府船井郡）において灯火に飛来した

ドロムシ，ヒメドロムシ類

（瑞穂町の甲虫類 1.）

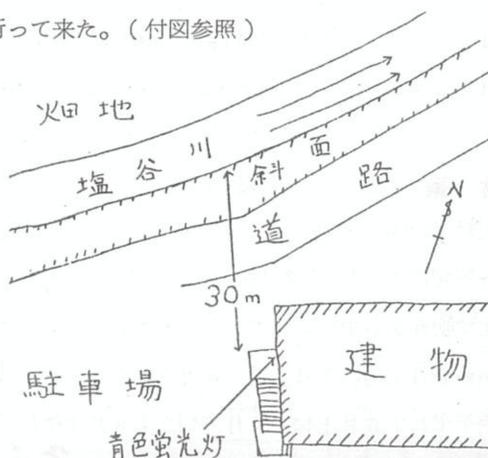
林 靖 彦

筆者は10数年来当直勤務の折を利用して、勤務先の建物の外壁に取り付けられた非常階段の2階踊り場に20Wの青色蛍光灯を設置して夜間採集を行って来た。（付図参照）

1973年夏にヒメドロムシ類の飛来が散見されるのに気付いたので1974年には6月頃から注意して見ていたところ下記のような結果を得たので、1975年の結果と合せて報告する。

種の同定をしていただいた佐藤正孝氏に厚くお礼申し上げます。

飛来種（飛来個体は可及的全て採集するようにした）



ドロムシ科 DRYOPIDAE

- ムナビロツヤドロムシ *Elmomorpha brevicornis* SHARP

ヒメドロムシ科 ELMIDAE

- イブシアシナガドロムシ *Stenelmis nipponica* NOMURA
- キスジミゾドロムシ *Ordobrevia foveicollis* (SCHÖNFELDT)
- キベリナガアシドロムシ *Grouvellinus marginatus* (KÔNO)
- アワツヤドロムシ *Zaitzevia awana* (KÔNO)

付 表

	'74	12.VI	3.VII	4.VII	9.VII	16.VII	19.VII	13.IX	'75	22.VI	26.VII	19.VIII	19.IX	23.IX	計
ムナビロツヤドロムシ						1							1		2
イブシアシナガドロムシ			11	10	3	3	20	3					7	1	58
キスジミゾドロムシ		1	3	3	3	1	1			5	4				21
キベリナガアシドロムシ			2		2		3						2		9
アワツヤドロムシ			1	3	34	2	39						3		82
計		1	17	16	42	7	63	3		5	4	12	1	1	172

考 察：表を見て判るように、全ての種が8月上～中旬には飛来している。7月中に飛来したのはキスジミゾドロムシだけであつた。また、9月に飛来したのはムナビロツヤドロムシとイブシアシナガドロムシの2種であつた。1975年にも同時期に注意して見たが、飛来が見られたのは7月下旬、8月19日と9月20日前後のみで、個体数も少なかつた。この原因は不明であるが、その後注意して見ていたが、年度による飛来数の増減は著しいようである。また、大阪甲虫同好会が岩湧山で行つた調査の時に見られたような特定種（岩湧ではスジミゾドロムシ）の爆発的な多量飛来は認められなかつた。

文 献

木村 裕、他（1969）；灯火に飛来した岩湧山の甲虫類について。“びいとるず”，1(1)：9-11。

——— ；同上、1(2)：2-22。

新 入 会 員



住 所 変 更



61.12.24

死 去 (謹んでご冥福をお祈りします)

退 会

認 定 退 会

第42巻の会費は5,000円です

昆虫学評論第42巻の会費5,000円を、同封の郵便振替用紙で3月末日までにご納入下さるようお願いいたします。